

聖書翻訳の過去・現在・未来 ルター訳聖書

2017 年改訂版について

著者	吉田 新
雑誌名	東北学院大学キリスト教文化研究所紀要
号	35
ページ	43-49
発行年	2017-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1204/00023932/

研究フォーラム

聖書翻訳の過去・現在・未来

ルター訳聖書 2017 年改訂版について¹

吉 田 新

はじめに

1 ルター訳聖書 2017 年改訂版の変更箇所
まとめ

はじめに

これまで、聖書翻訳は数限りなく繰り返されてきた。古代ユダヤ教の遺産である「七十人訳聖書」は、新約聖書の著者たちをはじめとする古代キリスト教徒にとっての（旧約）聖書である。ラテン語訳聖書（ウルガタ）なしに、古代末期から中世にかけてのキリスト教神学の展開は考えられないだろう。また、マルティン・ルターのドイツ語訳聖書が、その後の欧州における思想形成に与えた影響は計りしれない。

2017 年は宗教改革から 500 年を迎える記念すべき年である。それに先立ち、ドイツ聖書協会（Deutsche Bibelgesellschaft）は、2016 年 10 月にルターによる聖書翻訳、通称「ルター聖書（Lutherbibel）」（以下、ルター訳聖書）の改訂版を公にした²。ルター訳聖書の校訂作業は、教会が責任も持つて行う公的な校訂（Kirchenamtliche Revision）としては、1892 年に第一回、1912 年の第二回、1984 年の第三回に続き、第四回目となる。

聖書に関する研究は絶え間なく進められており、新しい解釈も次々に提出されている。聖書考古学の成果が、これまでの定説や通説を覆すことは少なくない。聖書の本文も新しい読み方が採用されている。加えて、置き換えられる言語も時代によって変化している。

1 本稿は 2016 年 10 月 29 日に開催されたキリスト教文化研究所主催の研究フォーラム「宗教改革の黎明～聖書翻訳への挑戦」における論者の発表「聖書翻訳の過去・現在・未来」の前半部分を大幅に加筆、修正した小論である。

2 校訂版が出版される以前、草稿の段階でどのような議論が交わされたのかについての考察は、以下を参照。吉田新「ルター訳聖書と現代ドイツ教会 ― 伝統の継承か、刷新か ―」, 63-89 頁。また 2017 年校訂版に関する簡単な解説は、以下を参照。吉田新「ルター訳聖書 2017 年改訂版について」, 8-9 頁, 同「海外新刊情報 Die Bibel nach Martin Luthers Übersetzung」, 2017 年, 89 頁。

それゆえ、聖書の翻訳は常に刷新され続けなければならない。

本稿では、ルター訳聖書 2017 年改訂版（以下、2017 年改訂版）における変更点を確認する。ルター自身による翻訳、及びその後の校訂版の翻訳をどのように受け止め、変更を加えているのか。「過去」と「現在」の訳文を読み比べつつ、それを「未来」にいかに関与しているのかを見極めたい。以下、取り上げるのは新約聖書の訳文が主である。

1 ルター訳聖書 2017 年改訂版の変更箇所

では、ルター訳聖書 2017 年改訂版の主たる変更箇所を確認しよう。2010 年、ドイツ福音主義教会（Evangelische Kirche in Deutschland）の常議員会は、ルター訳の校閲を行うことを決定し、その際、次のような指針を公にした。① 最新の正文批評に基づいたテキストに合わせる。② 必ず必要とされる新しい聖書学の知見を盛り込む。③ 今まで知られていた言葉の響きを可能な限り保持する³。今回の改訂版を読むと、この指針に従って変更が加えられ、または以前の訳文が修正されたことが分かる。

出版された 2017 年改訂版の巻末、及びドイツ聖書協会のホームページにおいて、変更箇所について解説されている⁴。今回は旧約、新約、そして旧約聖書続編（ドイツ語では「Apokryphen」）を含めた聖書全体を再検討し、校訂作業を行った。聖書全体の 35,598 行のうち、56% の行が 1984 年版と全く同じ部分、44% の行に大小の変更が加えられている。旧約では 39%、新約では 44%、旧約聖書続編では 83% に及び、旧約聖書続編に大幅な変更が加えられたことが分かる。単語の変更は旧約では 5%、新約では 8%、旧約聖書続編では 31% である。

校訂の基準は三つあるとする。① 正確さ（Genauigkeit）、② 分かりやすさ（Verständlichkeit）、③ ルターの言葉遣い（Luthersprache）である。翻訳においては、① 正確さは最も重要である。原語、原文を正確に訳すことが翻訳者の使命である。また、② 分かりやすさも必要である。昨今の言葉の変化に対応した訳文、訳語に仕上げることを目指す。しかし、③ ルターの言葉遣いとは一体何か。1984 年の校訂版においてルターの訳文や訳語を現代語に置き換えた箇所が多々あるため、今回、それをルターのオリジナルのものに戻すことを試みている。つまり、原点への回帰である。1984 年版は内容から判断して必ずしも必要のない語句を現代語に変えたため、ルターの言葉遣いが失われてしまったという反省があったようである。

3 Martin Karrer, Die Durchsicht des Neuen Testaments in der Lutherbibel, 221.

4 <https://www.die-bibel.de/ueber-uns/unsere-uebersetzungen/lutherbibel-2017/>

では、具体的にテキストを確認してみよう。以下、先の①から③の三点の枠組みに当てはめながら、1984年版と2017年版を併記し、その違いを確かめたい。日本聖書協会による新共同訳も併せて記す（下線は論者）。

1.1 正確さ

1.1.1 マタイによる福音書 8 章 24 節

〔1984 年版〕

Und siehe, da erhob sich ein gewaltiger Sturm auf dem See, sodass auch das Boot von Wellen zugedeckt wurde. Er aber schlief.

〔2017 年版〕

Und siehe, da war ein großes Beben im Meer, sodass das Boot von den Wellen bedeckt wurde. Er aber schlief.

〔新共同訳〕

そのとき、湖に激しい嵐が起こり、舟は波にのまれそうになった。イエスは眠っておられた。

前半部分「ein gewaltiger Sturm（激しい嵐）」が「ein großes Beben（大きな揺れ、振動）」に置き換えられている。原語「σεισμός」は、「揺れ」「振動」「地震」という意味もあり、今回の改定版はこちらの意味だと判断したと思われる（新共同訳は「激しい嵐」）。また、原語「ἐν τῇ θαλάσσῃ」は「湖において（auf dem See）」から、「海で（im Meer）」に変わり、後文も「zudecken」から「decken」に変えられている。1522 年のルター訳聖書は「vnd sihe, da erhub sich ein grosse vngestum ym meer」とあり、ルターは「im Meer」と訳していることに注目したい。この部分はオリジナルのルター訳に戻した。ここでは③ルターの言葉遣いも意識されているようである。次に、正確さに配慮したもう一つの訳文を確認してみよう。

1.1.2 コリントの信徒への手紙一 11 章 24 節

〔1984 年版〕

(Der Herr Jesus) dankte und brach's und sprach : Das ist mein Leib, der für euch gegeben wird ; das tut zu meinem Gedächtnis.

〔2017 年版〕

(Der Herr Jesus) dankte und brach's und sprach : Das ist mein Leib für euch ; das tut zu meinem Gedächtnis.

〔新共同訳〕

(主イエスは) 感謝の祈りをささげてそれを裂き, 「これは, あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

1984 年版と 2017 年版の訳文を読み比べてみると違いは明確であろう。1984 年版の後文「あなたがたのために与えられた (der für euch gegeben wird)」は, ギリシア語本文にはない (「καὶ εὐχαριστήσας ἔκλασεν καὶ εἶπεν· τοῦτό μου ἐστὶν τὸ σῶμα τὸ ὑπὲρ ὑμῶν· τοῦτο ποιεῖτε εἰς τὴν ἐμὴν ἀνάμνησιν.」)。なぜ, このような付加がなされたのだろうか。ここでは, ルターが翻訳の際に使用したと考えられるエラスムスの新約聖書校訂本第二版が問題となる。そこには, 「あなたがたのために裂かれた」という言葉が挿入されていた。実際, ルター訳聖書 1522 年版では「(der herr Jhesu) danckt, vnd brachs vnd sprach, Nemet, esset, das ist meyn leyb, der fur euch brochen wirt」と訳されている。正文批判において, この文章は明らかに二次的な挿入句であると判断されたが, 1984 年版では並行箇所である「ルカによる福音書」22 章 19 節と合わせ, 先の言葉を挿入した。正確さを求める 2017 年版では, 本文は「これは, あなたがたのためのわたしの体である (Das ist mein Leib für euch)」とだけ訳され, 後半は本文では除かれている。しかし, 訳注には以前の訳文を記している。

1.2 分かりさすさ

1.2.1 創世記 35 章 17 節

〔1984 年版〕

Da ihr aber die Geburt so schwer wurde, sprach die Wehmutter zu ihr : Fürchte dich nicht, denn auch diesmal wirst du einen Sohn haben.

〔2017 年版〕

Da ihr aber die Geburt so schwer wurde, sprach die Hebamme zu ihr : Fürchte dich nicht, denn auch diesmal wirst du einen Sohn haben.

〔新共同訳〕

ラケルが産みの苦しみをしているとき、助産婦は彼女に、「心配ありません。今度も男の子ですよ」と言った。

変更されたのは一つの単語である。ルターの訳語である「Wehmutter」から、現代語の「Hebamme」に変わっている。日本語の「助産婦」にあたる単語であるが、「Wehmutter」は現代では分かりにくいので、一般的に用いられている「Hebamme」に置き換えている。

1.2.2 ローマの信徒への手紙 1 章 13 節

〔1984 年版〕

Ich will euch aber nicht verschweigen, liebe Brüder [...].

〔2017 年版〕

Ich will euch aber nicht verschweigen, Brüder und Schwestern [...].

〔新共同訳〕

兄弟たち、ぜひ知ってもらいたい。

この変更は先の「正確さ」のカテゴリの属するかもしれないが、2017 年改訂版では「ローマの信徒への手紙」1 章 13 節をはじめとして、「ἀδελφός」をこれまでの「兄弟たち (Brüder)」から「兄弟と姉妹たち (Brüder und Schwestern)」に変更している。原文では男性だけではなく、女性も含むと考えるからである。

1.3 ルターの言葉遣い

1.3.1 マタイによる福音書 12 章 34 節

〔1984 年版〕

Ihr Schlangenbrut, wie könnt ihr Gutes reden, die ihr böse seid? Wes das Herz voll ist, des geht der Mund über.

〔2017 年版〕

Ihr Otterngezücht, wie könnt ihr Gutes reden, die ihr böse seid? Wes das Herz voll ist, des geht der Mund über.

〔新共同訳〕

虺の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心にあふれていることが出て来るのである。

有名な箇所である。原語「γεννήματα ἐχιδνῶν」は「Ihr Schlangenbrut」は、ルターの元来の訳である「Ihr Otterngezücht」に変更されている（マタ 3 : 7, 23 : 33 も同様）。1522 年版では「Jhr ottern getzichte, wie kund yhr gutts reden, die weyll yhr bose seyt? Wes das hertz voll ist, des geht der mund vbir」。

1.3.2 ローマの信徒への手紙 10 章 10 節

〔1984 年版〕

Denn wenn man von Herzen glaubt, so wird man gerecht ; und man mit dem Munde bekennt, so wird man gerettet.

〔2017 年版〕

Denn wer mit dem Herzen glaubt, wird gerecht ; und wer mit dem Munde bekennt, wird selig.

〔新共同訳〕

実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

原文は「καρδία γὰρ πιστεύεται εἰς δικαιοσύνην, στόματι δὲ ὁμολογεῖται εἰς σωτηρίαν」である。前半部分、「Denn wenn man」を「Denn wer」に置き換えているだけでなく、後半部分、1522 年のルター自身の訳「Denn so man von hertzen glewb, so wirt man rechtfertig, vnd so man mit dem mund bekennt, so wirt man selig」に戻していることに注目したい。ルターは「Heiland」や「selig」といった語句を訳文に用いていた。現代ではあまり使用されないこれらの語句をあえて採用する試みを 2017 年版では行っている。

まとめ

以上、① 正確さ、② 分かりやすさ、③ ルターの言葉の三つの枠内で、今回、変更が加えられている箇所の一部を確かめた。全体から判断すれば、ルターの語彙や訳文にあえて戻しルターの翻訳への回帰が目立つ。行き過ぎた現代語への置き換えを改め、近代ドイ

ツ語を整えたルターの言葉遣いをもう一度、取り戻そうとする試みが、今回の2017年校訂版の各箇所から受け取れる。

参 考 文 献

- 吉田新「ルター訳聖書と現代ドイツ教会 ― 伝統の継承か、刷新か ―」, 上智大学キリスト教文化研究所編『ルターにおける聖書と神学』所収, リトン社, 2016年, 63-89頁
- 同「ルター訳聖書2017年改訂版について」, 『ソア44号』, 日本聖書協会, 2017年, 8-9頁
- 同「海外新刊情報 Die Bibel nach Martin Luthers Übersetzung」, 日本基督教団出版局「説教黙想アレテイヤ No. 96」, 日本基督教団出版局, 2017年, 89頁
- Martin Karrer, Die Durchsicht des Neuen Testaments in der Lutherbibel, in : M. Lange/ M. Rösel (Hg.), »Was Dolmetschen für Kunst und Arbeit sei«, Die Lutherbibel und andere deutsche Bibelübersetzungen. Beiträge der Rostocker Konferenz 2013, Leipzig/ Stuttgart 2014, 221-239.